

事業計画書目次

[環境創造局]

8款5項2目

(単位：千円)

計画書頁	事業名	令和5年度		令和4年度		増△減(5-4)		新規・拡充
		事業費	市債+一財	事業費	市債+一財	事業費	市債+一財	
1	横浜市立動物園 管理運営事業	2,371,783	2,267,967	2,303,260	2,200,753	68,523	67,214	
2	動物収集事業	14,574	5,574	10,315	5,315	4,259	259	
3	繁殖センター 管理運営費	56,821	56,133	53,892	53,304	2,929	2,829	
4	希少動物 海外交流事業	1,525	1,075	75	75	1,450	1,000	
5	野生鳥獣対策事業	18,471	11,704	16,844	10,082	1,627	1,622	
6	動物園基金事業	13,220	5,219	10,244	5,243	2,976	△ 24	
	計	2,476,394	2,347,672	2,394,630	2,274,772	81,764	72,900	

令和 5年度 事業計画書

事業局課	環境創造局	動物園課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	1
事業区分	<input type="checkbox"/> 施設等整備費 <input checked="" type="checkbox"/> その他		2	目	枝番号	前年度事業名称	
歳出予算科目	一般会計	8	款	5	項	2	目
事業名称	横浜市立動物園管理運営事業			政策番号	31	政策指標	1
				施策番号	5	施策指標	1

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				一般財源等	
		国	県	公園使用料	その他	市債	一般財源
令和5年度	2,371,783		1,600	98,309	3,907		2,267,967
補助事業							0
単独事業							0
令和4年度	2,303,260		1,600	97,693	3,214		2,200,753
増△減	68,523	0	0	616	693	0	67,214

歳出	令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度		
	事業費	市債+一般財源	合計	事業費	市債+一般財源	合計	事業費	市債+一般財源	合計	事業費	市債+一般財源	合計	事業費	市債+一般財源	合計	事業費	市債+一般財源	合計
予算	2,280,795	2,169,377	4,450,172	2,680,079	2,577,117	5,257,196	2,294,888	2,192,094	4,486,982	2,302,862	2,199,046	4,501,908	2,302,862	2,199,046	4,501,908	2,302,862	2,199,046	4,501,908
決算	2,330,067	2,218,649	4,548,716	2,671,780	2,570,508	5,242,288	2,336,090	2,216,205	4,552,295									

事業概要
 よこはま動物園ズーラシア、野毛山動物園、金沢動物園、野毛山公園（動物園を除く。）及び金沢自然公園（動物園を除く。）を指定管理者（（公財）横浜市緑の協会）が一体的に管理運営することにより、来園者サービスの向上を図ります。

事業開始年度
 平成20年度

根拠法令・方針決裁等
 横浜市動物園条例、横浜市動物園等の指定管理者の選定及び評価に関する要綱、横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会要綱、横浜市動物園等の指定管理者の評価に関する要綱

**①背景・課題の分析
 ②事業目的・効果（必要性）**
 横浜市立動物園は、都市公園法に基づく公共の福祉の増進に資するため設置された施設であり、博物館法に基づく教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的に設置された博物館相当施設です。
 生物多様性保全の重要性を人々に伝える自然との架け橋としての役割を担うとともに、動物たちを知り動物たちから感動を得ながら、いのちの大切さを学ぶ場を提供し、生きものと共生する文化の構築に貢献します。

根拠・データ等

- 平成18～22年度は、指定管理者として（公財）横浜市緑の協会がよこはま動物園ズーラシアの運営。
- 平成19年度までは、市が野毛山動物園と金沢動物園を運営。
- 平成20～22年度は、野毛山動物園と金沢動物園を指定管理者制度に移行し、3園一体管理に移行。
 ※指定管理者：（公財）横浜市緑の協会
- 平成23～27年度は、引き続き3園一体管理で運営（第2期指定管理期間、指定管理者：（公財）横浜市緑の協会）
- 平成23～24年度に、外部委員会による動物園にふさわしい運営体制の検討の実施。
- 平成25年4月に、よこはま動物園ズーラシア「アフリカのサバンナ」を一部開園、平成27年4月に全面開園。
- 平成28年4月に、金沢動物園「オセアニア区」リニューアルオープン。
- 平成28～令和7年度は、引き続き3園一体管理で運営（第3期指定管理期間、指定管理者：（公財）横浜市緑の協会）

事業指標		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
入園者数（よこはま）	単位	目標	125	125	125	125	125	125	125
	万人	実績	75.4	103.2					
入園者数（野毛山）	単位	目標	70	70	70	70	70	70	70
	万人	実績	39.1	50.1					
入園者数（金沢）	単位	目標	33	33	33	33	33	33	33
	万人	実績	26.3	32.2					

事業スケジュール
 3動物園にかかる下記業務
 ・管理運営にかかる業務（通年）
 ・指定管理選定業務（～3月）
 ・事業評価業務（～10月）
 ・モニタリング業務（9月・2月）
 ・その他連絡調整（通年）

(単位：千円)

細事業 (事業内訳)	細事業名称		5年度	4年度	差引(増減)	増減説明
	①	横浜市立動物園管理運営事業	2,371,783	2,303,260	68,523	光熱費高騰による指定管理料の増
②					0	
③					0	
④					0	
⑤					0	
⑥					0	
⑦					0	
⑧					0	
⑨					0	
⑩					0	
	細事業合計		2,371,783	2,303,260	68,523	

本資料は、公正・適正に作成しました。

課長	荒原 伸治	係長	関 美有希	係	山本 顕
----	-------	----	-------	---	------

令和 5年度 事業計画書

事業局課	環境創造局	動物園課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	
事業区分	<input type="checkbox"/> 施設等整備費	<input checked="" type="checkbox"/> その他	2	目	枝番号		
歳出予算科目	一般会計	8	款	5	項	前年度事業名称	
事業名称	動物収集事業			政策番号	31	政策指標	1
				施策番号	5	施策指標	-

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳			一般財源等		
		国	県	諸収入	繰入金	市債	一般財源
令和5年度	14,574				9,000		5,574
補助事業							0
単独事業							0
令和4年度	10,315				5,000		5,315
増△減	4,259	0	0	0	4,000	0	259

歳出		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
予算	事業費	9,610	15,585	14,905	15,000	15,000	16,000
	市債+一般財源	5,610	6,585	5,905	6,500	6,500	6,500
決算	事業費	5,610	7,625	2,672			
	市債+一般財源	5,262	7,625	2,672			

事業概要	横浜市立の3動物園の動物展示の維持及び種の保存に必要な血統更新のために、種の保全推進委員会で承認された保全収集計画に基づき、国内外の政府、自治体、動物園等と連携しての新規個体の収集と輸送を行います。さらに、計画推進に必要な情報交換・収集、計画の調整、生息地調査や技術習得などを促進し、動物園の魅力アップと種の保全事業を推進します。
事業開始年度	随時継続
根拠法令・方針決裁等	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律、動物の愛護及び管理に関する法律など

①背景・課題の分析 ②事業目的・効果 (必要性)	<p>1 背景と課題 国際的な希少動物の保全をするうえで重要な海外との協力関係の構築が、コロナ禍等の影響で滞っています。また、国際情勢等の影響で燃料費等が上昇し加えて円安による航空運賃その他の費用が増大しています。</p> <p>2 事業目的・効果 事業目的は、動物の収集を通じて動物園の魅力アップと種の保全事業の推進を図るだけでなく、本市が進める「横浜市環境管理計画」の推進に貢献することでもあります。</p> <p>動物の収集や搬入にあたっては、対象種の国内外の血統登録調整者や環境省、市民団体等との調整や交渉が必要不可欠です。そのため、海外については情報収集と調整のために国際会議への積極的な参加が必要となります。また、国内希少動物を動物園に導入し生息域外保全を進めるためには、環境省主催の会議や生息地調査に参加し保護のための行動実績を残しつつ、行政や保護団体、地元等との信頼関係を構築する必要があります。</p> <p>この事業を積極的に進めることによって、市立動物園による種の保存事業が推進されます。加えてSNS等により取組を積極的に発信することで常に進歩している市立動物園の実像を伝えることで市民の動物園事業への理解と来園者の満足度向上及び来園者数の増加が望まれます。また、関連する教育活動やイベントを通じても同様の効果が望めます。</p>
--------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

根拠・データ等	<p>《動物搬出入実績(主なもの)》 3年度：ユーラシアカワウソ(福島)、ハミルトンガメ(ドイツ)、オランウータン(静岡)、ドール(チェコ) 4年度(予定含む)：ウンピョウ(米国)、インドゾウ(豊橋からの帰園)、ホッキョクグマ(大阪) その他 《調整実績》 2年度：世界動物園水族館協会総会(WAZA)(リモート)、豊橋市とのインドゾウ繁殖に向けた連携の協議等 3年度：WAZA総会(リモート)、ツシマヤマネコ関連会議、豊橋市とのインドゾウ繁殖に向けての打合せ 4年度：WAZA総会(スペイン・カナリヤ諸島)、ミゾゴイ野生復帰事業調査(新潟・佐渡)、インドゾウ繁殖協議(豊橋市)</p>
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事業指標		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
収集に伴う動物輸送	単位	目標	10	10	10	10	10	10	10
	件	実績	13	7					
会議、調査等	単位	目標	2	3	3	4	4	4	4
	件	実績	4	5					
	単位	目標							
		実績							

事業スケジュール	<p>1 動物の補充・交換は、保全収集計画に基づき相手方との調整がつき次第実施します。</p> <p>2 海外との収集活動は動物園組織の年次会議などに積極的に参加し、具体的な協議を進めます。</p> <p>3 国内希少種の保全に関する政府及び関連団体等との情報交換や生息地の調査への参加を推進し、動物収集と保全活動への参画を推進します。</p>
----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(単位：千円)

細事業 (事業内訳)	細事業名称	5年度	4年度	差引(増減)	増減説明
	①	動物収集事業	12,900	8,600	4,300
②	情報収集事業	1,674	1,715	▲ 41	節減による減
③				0	
④				0	
⑤				0	
⑥				0	
⑦				0	
⑧				0	
⑨				0	
⑩				0	
	細事業合計	14,574	10,315	4,259	

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	荒原 伸治	係長	五十嵐 隆	係	森角 興起
--------------------	----	-------	----	-------	---	-------

令和 5年度 事業計画書

事業局課	環境創造局	動物園 課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	2
事業区分	<input type="checkbox"/> 施設等整備費	<input checked="" type="checkbox"/> その他				
歳出予算科目	一般会計	8 款	5 項	2 目	枝番号	
事業名称	繁殖センター管理運営費			政策番号	31	政策指標 1
				施策番号	5	施策指標 -

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳			一般財源等	
		国	県	諸収入	市債	一般財源
令和5年度	56,821			688		56,133
補助事業 単独事業						0
令和4年度	53,892			588		53,304
増△減	2,929	0	0	100	0	2,829

歳出	令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度		
	事業費	市債+一般財源	合計	事業費	市債+一般財源	合計	事業費	市債+一般財源	合計	事業費	市債+一般財源	合計	事業費	市債+一般財源	合計	事業費	市債+一般財源	合計
子算	55,136	51,049	106,185	55,932	56,343	112,275	55,919	55,317	111,236	53,653	52,301	105,954	53,653	52,301	105,954	53,653	52,301	105,954
決算	51,466	47,379	98,845	50,454	49,996	100,450	50,501	49,979	100,480	52,301	52,301	104,602	52,301	52,301	104,602	52,301	52,301	104,602

事業概要	繁殖センターにおいて、国際的に絶滅の危機に瀕する動物や、日本産および市内産の希少動物の保全・繁殖に取り組みます。また、繁殖センターでは3動物園での展示による普及効果と平行しながら、一般展示とは隔離した場所で動物福祉に配慮し、できるだけストレスを与えない落ち着いた環境の確保を図り、繁殖、遺伝子等の調査研究を専門的に行っています。							
事業開始年度	平成11年度							
根拠法令・方針決裁等	横浜市繁殖センター規定 配偶子バンク等事業に関する協定書 平成24年12月方針決裁							
①背景・課題の分析 ②事業目的・効果 (必要性)	<p>【事業目的】 繁殖センターは、平成11年の開所以来、国内動物園初の非公開繁殖研究専門施設として、飼育動物の繁殖メカニズムの解明やDNA解析による雌雄判別技術の開発など、本市動物園の「種の保存事業」を支える事を目的に事業を進めてきました。また、遺伝資源保存の分野では、これまでに54種の配偶子凍結保存を行い、将来の研究や種の保存に貢献するとともに(公社)日本動物園水族館協会の配偶子バンクの維持管理にも貢献しています。</p> <p>特に近年では、日本産希少動物保全事業において、ニホンライチョウの飼育繁殖技術確立および繁殖研究を推進するとともに、ミゾゴイおよびツシマヤマネコの繁殖研究や横浜市産希少種(カエル類)の飼育および研究を日本動物園水族館協会等と連携して推進しています。一方で、横浜市立動物園や日本動物園水族館協会および大学等と連携し、希少動物の人工繁殖および遺伝資源保存研究も進めています。</p> <p>【事業効果】 種の保存研究事業については、その研究成果により当センターで飼育する希少動物及び横浜市立動物園の飼育動物の繁殖に貢献するとともに、平成25年度からは日本動物園水族館協会の配偶子バンクの維持管理にも貢献しています。また、特別公開や夏の科学スクール、大学等の講義対応や一般市民向けの見学ツアー、SNSでの情報発信など、市民に対して事業への理解と関心を深める取組を随時行ってまいりました。日本産希少動物保全事業については平成25年度から導入したスバルライチョウやミゾゴイの繁殖に成功するとともに、横浜市産のカエル類の飼育繁殖および生息域内での調査研究を実施しています。更に平成30年度から新たにニホンライチョウの飼育および人工授精に取り組み、令和4年度には人工授精に成功しています。加えて、令和3年度からは市内産希少種であるツチガエルの野生復帰を目指し、元の生息地への試験放野も開始しています。また、希少種オガサワラカラヒワの保全のための知見を得る目的で近縁種である普通種カラヒワの飼育繁殖の取組も始め、令和4年度には当センターとして初めての繁殖に成功しています。</p>							
根拠・データ等	<p>【飼育動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> マレーバク：IUCNレッドリストEN(絶滅危惧種)、ワシントン条約I表、国内血統登録担当施設 カムムシロムク：IUCNレッドリストCR(近絶滅種)、ワシントン条約I表、国内血統登録担当施設 ホオアオタキ：IUCNレッドリストEN(絶滅危惧種)、ワシントン条約I表、国内血統登録担当施設 ニホンライチョウ：環境省レッドリスト絶滅危惧IB類(EN)、特別天然記念物、環境省希少動物保護増殖事業対象種 カグー：IUCNレッドリストEN(絶滅危惧種)、ワシントン条約I表 コンゴクジャク：IUCNレッドリストVU(危急種)、EEP(欧州絶滅危惧種計画)対象種 ミゾゴイ：IUCNレッドリストEN(絶滅危惧種) 							
事業指標	年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
主な繁殖動物	単位	目標	5	5	5	5	5	5
	種	実績	3	1				
希少動物種の保存共同研究	単位	目標	15	15	15	15	15	15
	件	実績	18	14				
	単位	目標						
	実績							
事業スケジュール	令和5年 4月 春季特別公開 8月 科学スクール開催 7～9月 希少動物飼育下繁殖関連会議出席 10月 秋季特別公開 12月 動物園技術者研究会出席 令和6年 3月 動物輸送							

(単位：千円)

細事業 (事業内訳)	細事業名称	5年度	4年度	差引(増減)	増減説明
	①	繁殖センター管理運営費	52,399	49,608	2,791
②	希少動物種の保存研究事業費	4,422	4,284	138	日本産希少動物保全事業の増
③				0	
④				0	
⑤				0	
⑥				0	
⑦				0	
⑧				0	
⑨				0	
⑩				0	
	細事業合計	56,821	53,892	2,929	

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	荒原 伸治	係長	尾形 光昭	係	中村 浩隆

令和 5 年度 事業計画書

事業局課	環境創造局	動物園課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 拡充	事業評価番号	
事業区分	<input type="checkbox"/> 施設等整備費 <input checked="" type="checkbox"/> その他						
歳出予算科目	一般会計	8 款	5 項	2 目	枝番号	前年度事業名称	
事業名称	希少動物海外交流事業			政策番号	31	政策指標	1
				実施番号	5	実施指標	-

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳			一般財源等	
		国	県	諸収入	市債	一般財源
令和5年度	1,525			450		1,075
補助事業						0
単独事業						0
令和4年度	75			0		75
増△減	1,450	0	0	450	0	1,000

歳出		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
予算	事業費	75	75	860	1,310	1,310	1,310
算	市債+一般財源	75	75	860	1,075	1,075	1,075
決算	事業費	0	0	882			
算	市債+一般財源	0	0	882			

事業概要	繁殖センターは、開所以来、海外の希少動物について現地政府との間で、生息域内保全活動の一環として、共同研究や動物交換などを通じた海外交流を行っています。							
事業開始年度	平成11年度							
根拠法令・方針決裁等	横浜市繁殖センター規定 横浜市とニューカレドニア南部州政府における野生動物に関する合意書 カムリシロムク野生復帰に関わる西部バリ国立公園と横浜市とカムリシロムク保護協会の覚書 平成24年12月方針決裁							
①背景・課題の分析 ②事業目的・効果 (必要性)	<p>1 ニューカレドニア希少動物研究交流事業 市制100周年を契機として始まり、ニューカレドニア南部州政府との海外交流事業として、特に固有種である希少鳥カグーの生息域内・域外保全を目的として、共同学術研究や動物交換を行っています。当センターでの飼育繁殖で得られた研究成果は現地のカグーをはじめとする希少動物の生息域内・域外保全活動に役立てられています。</p> <p>2 カムリシロムク野生復帰事業（インドネシアとの交流事業） 平成15年度から本市とインドネシア共和国間でバリ島固有の希少鳥であるカムリシロムクの野生復帰を目的とした事業を開始し、平成16年度からJICA草の根技術協力事業の補助金対象事業として実施してきました（第1期～第4期、3度の事業更新）。現地関係機関により、当センターから送致した個体を元に繁殖させた個体の野生復帰を進めた結果、一度は野外で絶滅したと言われていたカムリシロムクが、野生下で300羽を数えるまでに生息数が回復しています。しかし生息域は過去に比べ縮小した状況にとどまっています。</p>							
根拠・データ等	<p>【ニューカレドニアとの動物交換実績】 令和4年1月：カグー雌雄各1羽入園、平成31年1月：カムリシロムク雌雄各3羽、オウギバト雌雄各1羽出園 平成23年6月：カグー雌2羽入園、平成22年3月：カグー雌雄各1羽、オオミカドバト雌雄各1羽入園</p> <p>【カムリシロムクのインドネシア送致実績】 平成30年11月：15羽 平成28年3月：20羽 平成25年3月：25羽 平成22年11月：30羽 平成20年3月：20羽 平成18年1月：30羽 平成16年6月：20羽 計160羽</p>							
事業指標	年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
	単位	目標						
		実績						
	単位	目標						
		実績						
	単位	目標						
		実績						
事業スケジュール	令和5年度通年：関係各所との事業調整 令和5年12月：インドネシアにおける技術支援							

(単位：千円)

細事業 (事業内訳)	細事業名称	5年度	4年度	差引(増減)	増減説明
	①	ニューカレドニア希少動物研究交流事業	1,025	25	1,000
②	カムリシロムク野生復帰事業	500	50	450	技術支援に伴う増
③				0	
④				0	
⑤				0	
⑥				0	
⑦				0	
⑧				0	
⑨				0	
⑩				0	
	細事業合計	1,525	75	1,450	

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	係
	荒原 伸治	尾形 光昭	中村 浩隆

令和 5 年度 事業計画書

Summary table with columns: 事業局課, 事業区分, 歳出予算科目, 事業名称, 環境創造局, 動物園課, 新規拡充, 新規, 拡充, 事業評価書番号, 一般会計, 8 款, 5 項, 2 目, 枝番号, 前年度事業名称, 政策番号, 31, 政策指標, 1, 施策番号, 5, 施策指標, -

(単位: 千円)

Table with columns: 区分, 金額, 財源内訳 (国, 県, 手数料, その他), 一般財源等 (市債, 一般財源). Rows for 令和5年度, 補助事業, 令和4年度, 増△減.

Table with columns: 歳出, 令和元年度, 令和2年度, 令和3年度, 令和6年度, 令和7年度, 令和8年度. Rows for 事業費, 市債+一般財源.

Main project details table with sections: 事業概要, 事業開始年度, 根拠法令・方針決裁等, ①背景・課題の分析, ②事業目的・効果(必要性), 根拠・データ等, 事業指標 (with sub-table for 市民捕獲依頼数, アライグマ・ハクビシン捕獲数, 鳥獣等捕獲許可数), 事業スケジュール.

(単位: 千円)

Table with columns: 細事業名称, 5年度, 4年度, 差引(増減), 増減説明. Rows ①-⑩ and 細事業合計.

Footer table with columns: 課長 (荒原 伸治), 係長 (相浦 正弘), 係 (松岡 良樹). Text: 本資料は、公正・適正に作成しました。

令和 5年度 事業計画書

事業局課	環境創造局	動物園課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	
事業区分	<input type="checkbox"/> 施設等整備費	<input checked="" type="checkbox"/> その他	2	目	枝番号		
歳出予算科目	一般会計	8	款	5	項	前年度事業名称	動物園基金事業
事業名称	動物園基金事業			政策番号	31	政策指標	1
				施策番号	5	施策指標	-

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				一般財源等	
		国	県	財産収入	その他	市債	一般財源
令和5年度	13,220			1	8,000		5,219
補助事業							0
単独事業							0
令和4年度	10,244			1	5,000		5,243
増△減	2,976	0	0	0	3,000	0	△24

歳出		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
予算	事業費	16,401	10,301	10,271	13,220	13,220	13,220
	市債+一般財源	6,400	5,300	5,270	5,219	5,219	5,219
決算	事業費	10,090	10,048	10,070			
	市債+一般財源	6,475	260	488			

事業概要	横浜市へのふるさと納税を基金へ積立し、海外から中大型動物の導入を行う財源とする。								
事業開始年度	平成29年度								
根拠法令・方針決裁等	ワシントン条約（CITES）、地方税法第37条の2、地方自治法第241条、横浜市動物園基金条例								
①背景・課題の分析 ②事業目的・効果 (必要性)	生物多様性の保全への国際的な貢献と横浜市立動物園の充実を進めるために、遺伝的多様性の確保等から国際間での調整が必要となっている動物収集を、資金的な裏付けの下で着実に進めるよう、動物園に不可欠な動物の収集及びこれに付随する事業の推進に活用します。								
根拠・データ等	ワシントン条約（CITES）や海外との調整後、中大型動物が導入可能になった際に実施。								
事業指標	年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
ふるさと納税額 (動物園の充実)	単位	目標	1,500	1,500	3,500	7,500	7,500	7,500	7,500
	千円	実績	8,288	8,082					
	単位	目標							
		実績							
	単位	目標							
		実績							
事業スケジュール	・寄附金等受納 令和5年4月以降 随時受け入れ後基金へ積立								

(単位：千円)

細事業 (事業内訳)	細事業名称	5年度	4年度	差引(増減)	増減説明
	①	動物園基金事業	13,220	10,244	2,976
②				0	
③				0	
④				0	
⑤				0	
⑥				0	
⑦				0	
⑧				0	
⑨				0	
⑩				0	
	細事業合計	13,220	10,244	2,976	

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	係
	荒原 伸治	関 美有希	山本 顕